

外部評価報告書の発刊にあたって

大学における研究・教育の持続的なレベルアップを図るうえで、その状況の客観的な評価が不可欠なことは言うまでもない。法人化後の国立大学は自ずと中期目標・中期計画に沿った評価が求められるのはもちろんだが、増して大学の研究力強化・機能強化、世界への通用を強く意識すべき今、私たちの日常活動に対する他者の適正・厳正な評価は我々にとってますます重要なはずである。また、獣医学教育の国際水準化を目標とする近年の獣医学教育改善の流れのなかでは、適切な第三者評価の仕組み作りと実行が、改善のための手段として大きな課題になっていることも周知である。

今回、第2期中期目標・中期計画期間の中間にあたり、獣医学研究科・獣医学部では平成22年度～平成25年度の「教育」「研究」「社会貢献」「国際交流」「附属動物病院」等々の活動について、まず自己点検・評価を行い、それを基に、4名の外部評価委員会委員による評価を受診した。外部評価委員は、それぞれ専門を異にし、かつ獣医学領域の研究・教育とそれらの評価に具眼の獣医学日本獣医師会副会長・酒井健夫先生、岩手大学教授・佐藤れえ子先生、東京大学教授・尾崎博先生、ならびに岐阜大学教授・杉山誠先生にお引き受けいただいた。評価者各位には、年度末を控えた多忙な中で時間を割き、真摯、かつ率直な評価に取り組んでいただいたことに対して深甚の謝意を表したい。また、外部評価の材料としての自己点検・評価に真剣に取り組んでいただいた研究科教職員各位にも御礼を申し上げる次第である。

今回の外部評価では、絶対評価をお願いした。つまり、他と比べてどうか、ではなく、各外部評価者が考える北海道大学の獣医学研究科・獣医学部としての望ましい有り様、かくあるべき姿に対して現状はどうか？という観点である。いきおい、主目的である第2期中期目標・中期計画の達成状況の評価を越えた視点からの厳しい意見もいただき、外部評価委員会における質疑応答は、なかなか白熱したものとなった。あるいは、報告書をご覧いただければ、評価基準の曖昧さが残る点も指摘されるかもしれない。しかし、今、獣医学研究・教育やその国際化、世界通用性確保のトップを走ろうと努力し、それなりの成果を上げつつあると自負する私たちに必要なのは、その現状を、優れた点と足りない点を、自他の理想像に照らして率直かつ冷静に分析すること、それを基に近未来へ向けた研究・教育プランを推進し、あるいは再構築することである。そして、他者が私たちの獣医学研究科・獣医学部に期待する理想像＝ニーズが、私たちが思うとおり、あるいはそれ以上に高いところにあることにも改めて気付かされた次第である。「評価疲れ」という表現が既に陳腐に響くように、「評価」が日常茶飯事である今こそ、今回の絶対評価からの意見は重要な意義を持ち得るはずであり、私たちには、それを活かし高見を目指す義務がある。

外部評価報告書の内外公表にあたり、ご尽力いただいた全ての方々至今已一度感謝を申し上げますとともに、私たちの研究・教育活動について、さらには今般の評価方法や基準についても、より広く多くの方々からの忌憚ないご意見、ご批評を賜ることを切に祈るものである。

平成27年6月

北海道大学大学院獣医学研究科長・獣医学部長
稲葉 睦

北海道大学大学院獣医学研究科・獣医学部
外部評価委員会委員

尾崎 博 東京大学大学院農学生命科学研究科教授

◎ 酒井 健夫 日本獣医師会副会長・元日本大学総長

佐藤 れえ子 岩手大学農学部教授

杉山 誠 岐阜大学応用生物科学部教授

(敬称略：五十音順)

◎委員長

目 次

北海道大学大学院獣医学研究科・獣医学部 外部評価報告書

外部評価報告書の発刊にあたって

外部評価委員会委員

1. 外部評価実施概要	1
2. 外部評価調書（大学院獣医学研究科）	4
3. 外部評価調書（獣医学部）	33
4. 添付資料（外部評価委員会概要説明資料）	42

北海道大学大学院獣医学研究科 自己点検・評価報告書

北海道大学獣医学部 自己点検・評価報告書